軽減し、身体を（躯幹）を比較的自由に回旋できるよう工夫した。

以上の工夫、改善した装具を試作し、実験に供し、種々検討しているが、交付例は、一応ほぼ満足すべき結果をえている。

17、脊柱変形に対する発症防止、矯正装具の開発研究

愛媛大学

首藤　貴　　土居晶宜

大塚　彰　　赤松　満

野島元雄

ＰＭＤの病勢の進展に伴って、変形とくに胸廓脊柱に変形がみられることは周知の事実でありその発症、増悪阻止は、近時問題となりつつある心筋の早期変性の問題を顧慮してもきわめて重要な課題である。

研究者らは、上述、脊柱の変形、とくに側変（なかんづく後側弯）の増悪阻止に関し躯幹保持用シャーレ式装具を工夫した。すなわち、従来の背腰部と大腿根部を覆う躯幹支持シャーレ式装具にかえ、背腰部と大腿根部とで切割し、両者を弾性布帛にて結び、固定感より解放し、躯幹の能動的、自由な運動を許容し、一定の肢位に固定せしめることを避けた。この装具を若干の症例に試作したところ、ほぼ満足すべき成績をえることができ、今後さらに工夫を重ね普遍化をはかりたい。

つぎに、上述、脊柱の変形にも関連し、比較的しばしばみられる頸部の過伸展変形（拘縮）に対し、以下のような装具を工夫した。すなわち、腰部から両肩にかけまづジャケット式装具を作製し、ついで、後頭部、頸部を覆い、前面は顎下、両前胸部を覆う頸椎用装具を作製した（以上の２つの装具はいづれも軽量なプラスチック製）。そして上述２つの装具は、後面は後者を前者に重なり合いネヂにて固定（溝を設け適宜調節できるようにした）し、前面は、後者の後頭部、頸部より前胸部に及ぶよう弾性布帛をまわし（後頭部では、この布帛は固定）前者の前胸部に及ぶようにし、頸部をできるだけ矯正位にて前者に固定した。そして、頸部の過伸展が矯正されるにつれ、前述、背部のネヂを適宜調整し、さらに矯正がはかられるよう配慮した。この装具も能動的に矯正がはかられるよう工夫したものであり、２症例に実施したが、矯正的効果も一応よく達せられている。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

PMD の病勢の進展に伴って、変形とくに胸廓脊柱に変形がみられることは周知の事実でありその発症、増悪阻止は、近時問題となりつつある心筋の早期変性の問題を顧慮してもきわめて重要な課題である。

研究者らは、上述、脊柱の変形、とくに側変(なかんづく後側弯)の増悪阻止に関し躯幹保持用シヤーレ式装具を工夫した。すなわち、従来の背腰部と大腿根部を覆う躯幹支持シヤーレ式装具にかえ、背腰部と大腿根部とで切割し、両者を弾性布帛にて結び、固定感より解放し、躯幹の能動的、自由な運動を許容し、一定の肢位に固定せしめることを避けた。この装具を若干の症例に試作したところ、ほぼ満足すべき成績をえることができ、今後さらに工夫を重ね普遍化をはかりたい。